

大井川流域観光地域づくりサロン開催報告

開催日時 令和7年7月10日(木) 午後7時～午後9時
開催場所 川根文化センター チャリム 21
参加者 NPO まちづくり川根の会、自治会、島田市観光課、島田市観光協会
参加人数 10人

件名 川根町家山地域の観光振興について

【報告事項】

≪議題≫

1. かわね桜まつりについて
2. (仮称)かわね桜プロモーション事業について
3. 地域への裨益からみた観光地域づくり
4. 観光コンテンツの恒常化・持続化について
5. 意見交換

○かわね桜まつりについて

かわね桜まつりの業務を整理するとともに、業務のスリム化・収益化の検討について、関係者と協議を行った。

部会のスリム化やイベントの実施判断、出店管理など事業を継続していくための手法を提案

○(仮称)かわね桜プロモーション事業について

川根の桜をプロモーションすることによる認知度拡大を図るための事業として提案を行い、内容を説明した。これまでの桜まつりから大きな変更は無し。

○観光地域づくり・コンテンツの恒常化・持続化について

- 地域への裨益を図るため、お日にち限定や短期間のみのイベントの実施に尽力するのではなく、恒常的な観光コンテンツの提供が必要になる。
- そのために、まずは基礎的な観光地域づくりが必要と考える。駐車場の整備というような、観光客を受け入れるための最低限の整備。観光人材の育成が必要であり、観光協会では、プロガイド組織を作ろうと動いている。
- お日にち限定のイベントであっても、恒常化・持続化に影響するための取組に繋げていく。例えば、「わんてらす」はペットと泊まれる宿や入店可能な飲食店などに影響するため、イベントの実施が地域への送客・持続化に繋がる。
- 川根地域はコンパクトな地域の中に資源が豊富にある。

- 基礎的な土台作りをせずにイベントを優先して実施していくと、安定せず持続しない。土台をしっかりと築いていけば、地域の裨益に繋がる。

○意見交換

- 桜まつりに限らず、川根地域全体の観光やイベントをどうしていくのかを考えていく必要がある。
- BIG NATURE や天王山イルミネーションなどの地域に根付いているイベントは、若い世代と一緒に盛り上がって実施している。イベントの実施が川根に居る（住む）ことへ影響している。
- イベントを実施することによる関係人口の拡大を図っている。観光客が地域に訪れていても、商品コンテンツが弱いので地域経済に波及していないと思う。
- 地域、行政、観光協会などの関係者が話をして連携しながら事業を進めていきたい。
- 地域に根付き、残っていくものを作っていきたい。すぐには難しいが、時間をかけて年間通じて楽しめる仕組みを残したい。そのためには、ブランドデザインが必要になる。